

# 学校・家庭・地域の効果的な連携について

## ～日常業務の観点から～

田原本町教育委員会生涯教育課 北 田 喜 史  
Kitada Yoshifumi

### 要 旨

本町では、青少年健全育成推進協議会の推進地区を中心に、学校支援ボランティア、社会教育関係団体等が積極的に地域活動を実施している。その結果、社会貢献度や活動の実績にはすばらしいものがあると感じる。しかしその反面、それぞれの団体同士、また個人と団体間では互いにほとんど連携が図れていない。

そこで、社会教育に関係する団体や個人、あるいは公民館学習とのかかわりについて、地域の課題を整理することを通して互いが「つながり」をもてる方向性を探り、学校・家庭・地域の効果的な連携について考察した。

キーワード： 「つながり」、人間関係づくり

## 1 はじめに

筆者は日常の業務の中で、青少年健全育成や公民館学習あるいはボランティア、社会教育関係団体等の業務に携わっている。その中で、本研究のテーマ「学校・家庭・地域の効果的な連携について」を研究する機会に出会い、改めて地域活動における「つながり」の大切さを考える機会になった。

## 2 研究目的

青少年健全育成事業、公民館学習並びにボランティア活動について課題を探り、整理することを通して日常業務の中で携わっている社会教育・生涯学習を通して、学校・家庭・地域の効果的な連携の方向性を探る。

## 3 研究方法

田原本町青少年健全育成推進協議会の推進地区（5自治会）、ボランティア活動参加者、公民館学習、行事参加者などを対象にアンケート調査を行い、それぞれの活動への参加前後の意識の変化などを考察する。

## 4 研究内容と考察

### (1) 研究の内容

#### ア 田原本町青少年健全育成推進協議会の活動

青少年健全育成推進協議会は、広く町民の総意を集めて「学校・家庭・地域」が連携し、

青少年の健やかな成長を町民ぐるみではぐくむことを目的に昭和59年に設立され、現在に至っている。まさに、本研究テーマを具現化すべく、27年間にわたり青少年の健全育成に関する様々な活動を展開してきたといえるであろう。

その活動の一つが地域活動部会で、毎年推進地区（5自治会）を決定し、それぞれの地域において特色を生かした活動を行っている。自治会・子ども会・老人クラブなどが一体となり、育成懇談会や住民同士のふれあい活動など、様々な活動を通して、青少年の健全育成を目指している。1年間の地域活動の締めくくりとして、「子どもとつながる地域づくり」を趣旨に毎年3月には実践発表を行っている。今までに、本町全自治会が3回程度推進地区として活動し、青少年健全育成の推進をはじめとして、地域の活性化、子どもと地域の交流、地域と学校との協力関係の構築などに成果をあげている。

これからも推進地区の活動が恒久的に継続すれば、「子どもとつながる地域づくり」が全町に広がっていくことが期待できるのではないかと思う。

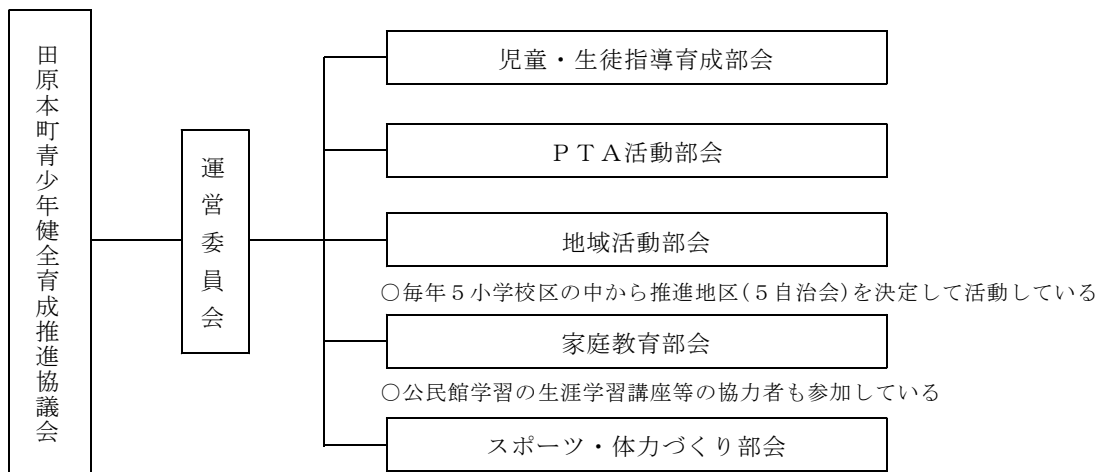


図1 田原本町青少年健全育成推進協議会の構成

## イ 社会教育委員活動及び公民館学習の実態

本町の社会教育委員会の委員は、積極的に青少年活動や公民館学習に参加した体験をもとに、青少年活動や公民館学習の在り方について適切な提言をしている。例えば「受講者のマナー化」「高齢化」「少人数教室の開催の在り方」などであり、これらの意見を受けて、時代の流れに適応した公民館学習の運営に役立てているところである。

社会教育委員会の提言を基に公民館学習を下記の例1のように変更したり、例2、3のような要領を定め、より良い公民館学習の運営を行った。

例1 同じメンバーの教室を効率化する。

「高齢者学級」、「女性セミナー」、「健康大学」を生涯学習講座に1本化した。

例2 基本的に教室を3年間受講したら、自主サークルに移行し、自分たちで学習をする。

例3 受講生の定員が30%に達しない教室は開催しない。

受講者にも最初は戸惑いがあったが、これらのことを実施することで、より効率的な公民館学習の運営となっている。

現状において本町の公民館が開催している公民館学習の参加者は高齢者が多い。子ども教

室の増加を計画しながらも、高齢者に学習の場を提供しているところである。

しかし、公民館は「誰でも寄り集い学習をする場」である。「子ども文化教室」を開催することにより、子どもと高齢者が共に学習する姿が徐々に増えつつあると感じている。

例えば、「子ども料理教室」の講師は田原本町地域婦人団体連絡協議会の方々である。講師の方が、御自身の孫くらいの子どものと共に料理を作っている様子を見ていると「高齢者と子ども」との「つながり」が自然にできている。また、送迎の保護者との会話もはずんでいる。この「子ども料理教室」は大変人気があり、募集と同時に定員に達してしまうほどである。このような「子ども教室」を少しずつ増やしていくことも家庭・地域の「つながり」の一助になると確信している。

## ウ 連携についての現在の課題

本町には、社会教育関係団体、個人がそれぞれの目的をもって活動している。もちろん公民館学習も例外ではなく、その目的が様々ではあるが、根底には「地域の活性化」「地域の連携を図る」を活動目標にしている。しかし、それぞれの団体同士、個人と団体間では互いに連携がとれていないのが現状である。今以上に地域を活性化させるためには、その「つながり」をいかに図るかが最大の課題である。

## (2) アンケート調査の実施

### ア アンケートの調査対象者及びアンケート項目

アンケートの対象者	アンケート回答者数	アンケート実施日
①推進地区（5自治会）	60名	平成22年9月初旬
②学校支援ボランティア	42名	
③子ども文化教室参加者 （料理教室と陶芸教室に参加した小学校5年生と6年生）	7名	
④田原本町子供会連絡協議会「シニアリーダーのつどい」のリーダー （本町教育委員会と青少年健全育成推進協議会主催の「曾爾宿泊体験学習」に指導者として参加した中学生から社会人までのリーダー）	7名	

①から④の対象者にその活動に応じたアンケートを作成し、それぞれの活動への参加前後の意識の変化を調べ、それぞれの活動の有益性を検証した。

アンケートの項目は、下記のとおりである。

#### ①と②のアンケート項目（若干の内容の相違はある）

- 1 「性別」
- 2 「年齢」
- 3 「自分自身の変化の有無」
- 4 「家庭内の変化の有無」
- 5 「小・中学校との関係の変化」
- 6 「学校・家庭・地域の『つながり』の変化」
- 7 「青少年健全育成（ボランティア活動）の有益性」
- 8 「継続性の意思」
- 9 「『学校・家庭・地域』とのかかわりで一番大切な事を自由に記入」

#### ③のアンケート項目

- 1 「教室に参加して」
- 2 「教室の内容」
- 3 「友達ができたか」
- 4 「講師との会話の

有無」 5「教室のことを家族に話したか」 6「教室の感想を自由に記入」

④ のアンケート項目

1「性別」 2「年齢」 3「子どもと接して感じた事を自由に記入」

イ 推進地区（60名）に実施したアンケート調査の結果及び考察

○アンケート項目7の結果

「つながり」という言葉をキーワードに田原本町で貴自治会（地域）・学校・家庭が連携して継続的に青少年健全育成を推進することは、青少年の健やかな成長及び地域の活性化に効果があると思いますか。

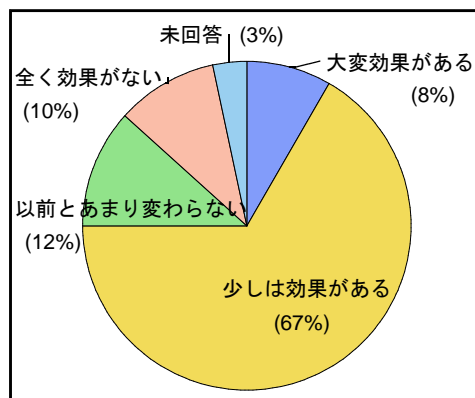


図2 アンケート項目7の結果

75%の人は学校・家庭・地域が連携して継続的に青少年健全育成を推進することに効果があると回答している。このことから、この事業には連携の効果があることが検証でき、毎年推進地区が変わっても本町すべての自治会に広がればもっと大きな効果が期待できる。また、担当者が変わっても推進地区を継続的に実施することは非常に大切である。

非常に大切である。

○アンケート項目3及び4の結果

地区懇談会や様々な行事を通じて、貴自治会（地区）内やあなた自身に何か変化がありましたか。（項目3）

家庭内であなたと子ども（孫）との関係に変化がありましたか。（項目4）

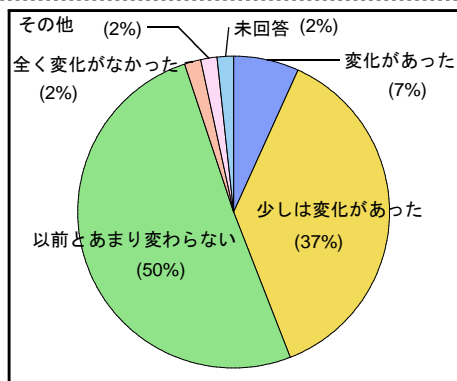


図3 アンケート項目3の結果

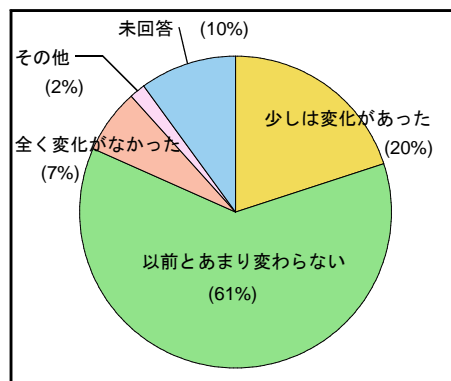


図4 アンケート項目4の結果

二つの質問に対する回答から約20%～40%以上が「変化があった」「少しは変化があった」と回答している。このことから、地域活動に参加することにより参加者自身や家庭内で良い意味での前向きな変化が起きているのではないかと考察できた。

○アンケート項目5の結果

貴自治会（地区）と地元小学校並びに中学校との関係に何か変化がありましたか。

この質問の回答では、「変化があった」「少しは変化があった」と回答したのが9%と非常に低かったのがこれからの課題である。ただ、アンケートを実施したのが平成22年9月であり、推進地区の活動が6月初旬から始まったことを考えると、早急に学校との関係を構築する時間的な余裕がなかったとも推測できる。

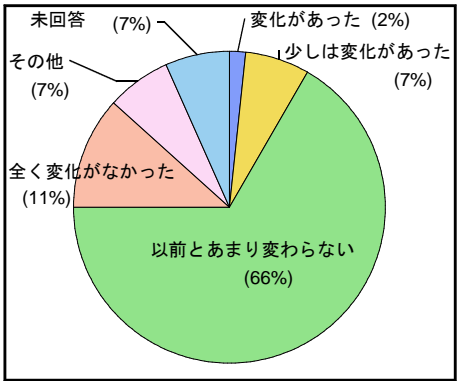


図5 アンケート項目5の結果

○アンケート項目9の結果の一部

「つながりは大事だと思うが、その距離感が難しい。推進地区の活動の行事に必ず参加するとなるとしんどく思う。」という記述があった。まず家庭が基本であり、次に地域の様々な活動に参加できることが読み取れた。

ウ 学校支援ボランティア（42名）に実施したアンケート調査の結果及び考察

○アンケート項目9の結果

ボランティア活動の経験を生かして継続的に、地域・学校・家庭の活動に参加したいですか。

まず、ボランティアの年齢で60歳以上が90%以上を占めていることが大きな特徴である。ボランティア活動の経験を生かして継続的に学校・家庭・地域の活動に参加したいと回答した人が90%以上いた。（図6）

学校支援ボランティア参加者は、高齢者の方が多いこともあってか、「自分の生きがいとしている」や「社会に貢献したい」という思いが強く感じられた。

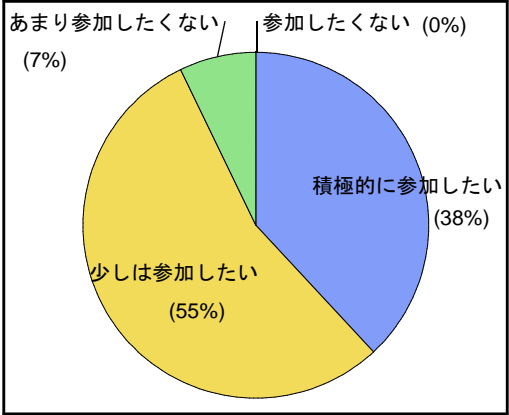


図6 アンケート項目9の結果

○アンケート項目7及び8の結果

ボランティア活動をされました（されています）が、学校・家庭・地域の「つながり」が以前よりもどのようになったと感じていらっしゃいますか。（項目7）

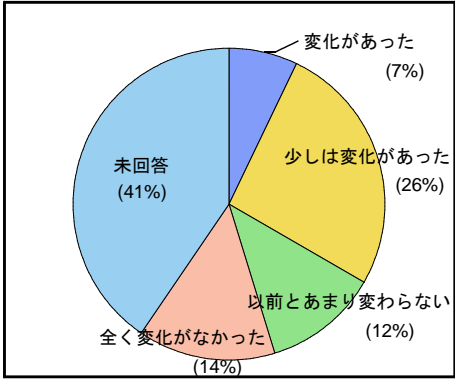


図7 アンケート項目7の結果

ボランティア活動を継続することによって、地域・学校・家庭が連携して、さらに青少年の健やかな成長及び地域の活性化が図られると思われませんか。(項目8)

ボランティア活動をすることにより、ボランティア自身や周りの環境までもが、良い方向に向かうのではないかと考察ができた。

質問7、8の回答からボランティア活動が「つながり」に無関係でなく、特に青少年健全育成の推進や地域の活性化に役立つことが検証できた。

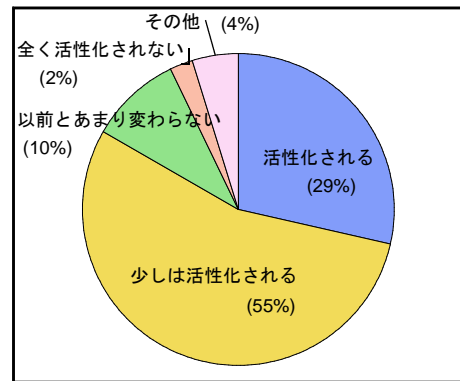


図8 アンケート項目8の結果

### エ 子ども文化教室参加者（7名）に実施したアンケート調査の結果及び考察

他の行事と重なり、結局「子ども文化教室」参加者7名だけのアンケート実施となった。

アンケートに回答してくれたすべての子どもたちが、「参加してよかった（項目1）」「内容も良かった（項目2）」「友達ができ講師とも話げできた（項目3）」と回答している。そして何より興味深かったのは、すべての子どもが「教室での出来事について、家で家族などに話をしている。」と回答していることであった。このことも、家族と子どもの「つながり」が少しでもできていることを表す事象で、社会教育に携わっている私たちにとって大変うれしいことであった。

### オ 田原本町子ども会連絡協議会「シニアリーダーのつどい」のリーダーに実施したアンケート調査の結果及び考察

毎年8月、本町教育委員会と青少年健全育成推進協議会が主催して、町内の小学5・6年生を対象に、1泊2日の「曾爾宿泊体験学習」を開催している。本年は中学生から社会人まで16名のリーダーが指導者として参加し、参加した子どもたち60名に、山登り・飯盒炊飯・キャンプファイヤーなどを指導してくれた。リーダーの存在がなければこの行事は開催できないと言っても過言でないほどにリーダーの存在は重要である。

リーダーの中には参加者とあまり年が変わらない子どももいたが、戸惑いながらも一生懸命に指導していた姿が印象に残っている。



図9 山登り



図10 飯盒炊飯

シニアリーダーのつどいは「社会に役立つ人づくり」を目的にし、自分たちが様々な体験や経験をする事にも重点を置きつつ、主に子ども会を対象に活動している。時には推進地区

の子ども会や各大字単位の子ども会に出向き、レクリエーションなどを通じて子どもたちとの交流も図っている。このような活動をしている子ども会と生涯教育課は、更に連携を深めていこうとしている。

あるリーダーはアンケートに「親や先生以外の人に注意等をされたことがないのか、リーダー等が注意してもなかなか言うことを聞いてくれない。学校・家庭・地域が一つとなり、子どもたちを見守ってあげて、悪いことは悪いんだと注意してあげられるような環境が必要だ。」と回答している。リーダーも「学校・家庭・地域」が一つになる重要性を述べている。このことから「つながり」を図り、子どもたちに無関心にならず「悪いことは、悪いんだ」と言える環境をつくること、また学校・家庭・地域が「つながり、一つになって、子どもたちを見守って」いかなければならないと思った。

## 5 研究成果と考察

- 社会教育活動の取組を通じたそれぞれの地域連携に弱さがあるが、「つながり」を合い言葉に様々な活動を実施することにより、地域に連携が少しずつ浸透していくと考える。
- 学校・家庭・地域の連携の弱さや組織性の弱さを日常業務で感じていたことがこの研究で明らかになった。このことをいかに克服していくか、方策を打ち立てていくか検討する必要がある。そのためには、学校・家庭・地域を点ではなく線として「つながり」を形成していくことの重要性を見直す必要性を痛感した。
- ボランティア活動が、学校・家庭・地域の連携に重要な役割を果たしていることが実証され、公民館学習において、成人だけでなく「子ども教室」と「親と子の教室」を開催する大切さを認識し、更に青少年健全育成活動の重要性を再認識した。

## 6 今後の課題

### (1) ボランティア活動が普及していくための手立て

本町では、町が立ち上げたボランティアや田原本町ボランティア連絡協議会など、様々なボランティア団体や個人のボランティアがそれぞれの目的をもって活動している。そのすべての活動実態を把握しきれてはいないが、できる限り多くのボランティア団体・個人との接点を持ち、ボランティアと行政とが役割分担して、共存、共栄していくことのできる関係を構築できればと考えている。

社会教育行政の観点からボランティア活動を促進、普及していくためには、まずはボランティアの活動の場を作ること、次にボランティアを育成すること、そして最後にボランティア活動を啓発して促進することではないかと考える。例えば、本町文化祭など町の行事に参画あるいは、協力してもらえるボランティアを養成していけば、町の活性化につながるのではないかと考えている。また、本町全体のボランティア団体や個人のボランティアを取りまとめ、協議会を立ち上げ公民館学習の講師として参画してもらうことも考えている。

### (2) 学校・家庭・地域が連携できるように、継続的な青少年健全育成や公民館学習の構築を考える

青少年健全育成協議会は、今後も継続的に町を挙げて推進し、発展させていかなければならない町の大切な協議会であると認識している。

公民館学習についても、社会教育法第2条「(前略) 主として青少年及び成人に対して行

われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーション）をいう。」に基づき、成人やお年寄り、あるいは固定したメンバーの公民館学習だけでなく、特に小学生の子どもたちを対象にした教室を開催し、受講した子どもたちが教室で学んだことを家庭で家族に話せるような「子ども教室」を目指して、現在は「子ども文化教室」を立ち上げ開催しているところである。更にこの教室を発展させる方法を検討している。

## 7 おわりに

「学校・家庭・地域の効果的な連携の在り方」の研究をする機会を与えていただき、日常何げなく取り組んでいる業務を、もう一度考える良い機会になった。

この研究を通じて「効果的な連携の在り方」に十分に迫れたかどうかは疑問である。

抽象的な表現になるが、町民すべてが「つながり」を合い言葉に、良い意味での目標を目指すための情報を共有し、人との関係の構築が図られるよう何事にも無関心にならない事が大切ではないかと今、考えている。